

# Eureka VIII

六年制通信 No.13 令和2年8月21日(金)号

## 正・大・精・深

このままいけば、校庭にバナナが生るのではないか。今日は暑いですねえ、というレベルではないものね。身の危険を感じる暑さですから、体調管理にはくれぐれも用心してください。いつも言っているように、学校というところは（校外研修を含め）君たちの安全の半分を保証しているにすぎません。自分の安全は自分で守るのが基本です。学校に限らず100%の安全などどこにもないと考えておくことです。

始業式にも言いましたが、昭和30年代のエッセイを読んでいたら「昨日は気温が30度になったということで大騒ぎ」という箇所がありました。私の子供のころ、もちろん家にクーラーはなかったし、扇風機も柱の上の方に固定されたものでした。見たことないでしょ。歴史の教科書に載ってないか？

当てもずいぶん暑かったように思うのですが30度でニュースになったわけですから、今よりずっと過ごしやすかったわけですね。小学校も木造校舎でしたし。私が教壇に立つようになったころ、もちろんクーラーはありません。三重中高の全教室にクーラーが入ったのは平成9年です。それまでは夏の授業は（夏休みの補習も）汗だけで、私も午前中でワイシャツを着替えた記憶があります。懐かしいけど、もうあの頃に戻れないし、戻りたくもないですね。

さて、コロナ禍も一向に終息しません。世の中のあらゆることが停滞気味で、小さな不満があちこちにくずぶっているようです。しかし、君たちがしっかり勉強しなければならないということは、コロナ禍の以前も以後も全く変わることはないと思います。君たちがたくさん勉強をして立派な青年となって社会に出る、そして培った能力を正しく行使して、世のため人のために生きる、このことは如何なる時代においても正しいことと信じています。

さて今回は「正・大・精・深」という幸田露伴の言葉を紹介しますね。『努力論』にある言葉ですが、岩波文庫版は漢字にルビがなく、露伴は恐ろしく難しい漢字をこれでもかと使いますからちょっと読めないですね。私の手元には忠誠堂から出た昭和16年再版（昭和2年初版発行）のがあって、総ルビのおかげで何とか読めますが、今回は夏川賀央さんの現代語訳も参照して私なりに要約してみたいと思います。

まず露伴は教育には目標が必要だと言うのですが、それはこの四語に集約されると考えます。どうも目標と言いながら、私には勉強するときに「忘れてはならないこと」というか指標のようなものと思えます。ま、どちらでも同じことですかね。

「正」とは王道を行くということです。まずは当たり前で普通に思えることを身に

つけることが大切で、人と競うあまり、人の知らないものばかりを追うのはよくないと。小林秀雄が万人のごとく知りなさいと言ったのと同じことだと思います。

「大」とは志を大きく持てということです。これはわかりやすいですね。筋トレを始めようと思った人が20キロのバーベルを持ち上げるのを目標としていたらどうでしょう。おかしいでしょ。どうせなら100キロを上げようと努力せよと言うことです。勉強も同じだと露伴は言います。

「精」とは精密を心掛けよということです。「精」の反対は粗悪品の「粗」です。緻密さを欠き、切磋琢磨することを欠き、選択を疎かにして、あらゆることに行き届かない状態を露伴は「粗」と捉えています。大雑把な勉強ならしない方がましだと、これは吉川英治が言っています。

「深」とは専門分野を掘り下げよということです。やがて君たちも勉強が進んでいくと、他の人はいざ知らず、自分にとって実に魅力的な対象が出てきます。その直感を大切に、その分野ではだれにも負けないくらい勉強なさいということです。こんなことに興味を持っているのは自分だけかと、そう思っても構わないのですよ。

以上、多少私の意見も入れましたが、露伴の説を紹介しました。私はこの中で、今の君たちには「精」が最も求められると考えています。いい加減な知識や中途半端な情報が溢れる昨今、そういうものを排斥する精神を持ってほしいと思うからです。

では、今日も明日も勉強できる幸せに感謝しながら、頑張りましょうね。

#### 今週のおすすめ

・水野敬也 『運命の恋をかなえるスタンダード』 (文響社)

夢をかなえるわけでもなくゾウがかなえるわけでもないのですね。『赤と黒』で有名なスタンダードは『恋愛論』で、事細かに恋愛を分析しています。「結晶化作用」なんて、諸君もなるほどと思うかもしれませんね。この水野さんの本だけで十分楽しめますから読んでみて下さい。図書館に置いておきます。

恋愛と言えば思い出す光景があります。私の学生時代の友人でね、今はある大学で英語を教えているのですが、これがまた白いスカートにピンクのブラウスの女性に必ず惚れるのですね。だいたい一目惚れ。油断も隙もない。で、うじうじするので私が彼の代わりに伝えに行く羽目になるわけで。そして、これまた必ず振られるのです。彼が言うには、私の伝え方がいけなかった、らしい(ほな、自分で行けや)。問題はその後として。毎回毎回私の下宿(本棚とテーブルしかない四畳半の!)に転がり込んで朝まで泣くんですね。ティッシュ一箱を使い切るまで。途中泣き止んだりするのですが、私が松山千春の「恋」をかけてやるとまた泣き出すんです。その繰り返しで朝が来ると。面白いでしょ。白いスカートにピンクのブラウスの女性が近くにいないことを本気で祈りましたよ、私は。

ちなみに彼は結婚式で奥さんをお姫様抱っこしようとして落とすという失態を演じ、それ以来全く頭が上がらないまま今日に至るそうです。幸せなこつですね。

BGMは あいみよんの 裸の心でした…。